



2012 年度 事業計画書 予 算 書



学校保健教育プロジェクト（プロジェクト・りとる）の実施対象校である
小学校で学ぶ女の子たち。 Bangladesh・ブパイルにて
（撮影 川口恭子）

公益社団法人
日本キリスト教海外医療協力会

Japan Overseas Christian Medical Cooperative Service
(JOCS)

目次

1. 新年度の抱負	1
2. 2012年度計画	2
3. 海外諸活動	5
3-1 海外派遣	5
(1) バングラデシュ 宮川眞一ワーカー	5
(2) バングラデシュ 山内章子ワーカー	6
(3) バングラデシュ 岩本直美ワーカー	7
(4) タンザニア 倉辻忠俊シニアワーカー	8
(5) パキスタン 青木盛ワーカー	9
3-2 短期派遣	9
3-3 研修生・奨学金支援	10
3-4 協働プロジェクト（プロジェクト・りとる）	10
4. 国内諸活動	16
4-1 国内活動全般	16
4-2 ワーカー育成活動全般	16
4-3 東日本大震災被災者支援	17
4-4 広報全般	17
4-5 募金	18
4-6 使用済み切手運動	18
4-7 JOCS 関西バザー	19
4-8 50周年記念事業	19
5. 運営会議	20
5-1 社員総会	20
5-2 理事会	20
5-3 運営協議会	20
5-4 委員会	20
5-5 海外保健医療協力者会議	22
5-6 新「今後5年間の方向性」（2013～2017年）	22
5-7 評価	24
6. 事務局	25
7. 予算書	27
収支予算書（正味財産増減ベース）	27
収支予算書内訳表（正味財産増減ベース）	29
収支予算書総括表（資金収支ベース）	31
公益目的事業会計 収支予算書（資金収支ベース）	32
収益事業会計 収支予算書（資金収支ベース）	35
法人会計 収支予算書（資金収支ベース）	36

1. 新年度の抱負

内外の「小さくされた人々」とともに生きることを願って

＜会長 小島 莊明＞

2012年度の定期社員総会にあたり、会員の皆様ならびに JOCS の働きを日頃からさまざま
な形でご支援くださっている皆様に、まず心からの感謝を申し上げたいと存じます。

昨年は、東日本大震災とそれに続く原発事故のために、東北の地をはじめ我が国全体が
大きな打撃を受けました。とりわけ被災地の方々の心の傷は深く、未だに癒されない状態
が続いています。JOCS は、本来の海外での協力活動に加え、皆様のご理解とご支援のもと
に、ささやかながら東北の地における保健医療分野の支援の働きにもかかわってまいりま
した。そして、今後も、困難のなかにある被災地の方々に少しでも寄り添う歩みができる
ようにと願っております。

一方、JOCS は、昨年度から「公益社団法人」として新たな出発を致しました。今年度は、
その新たな定款のもとに改選された理事会のもと、「基本方針・実施要綱 (P&P)」の改定や
JOCS の目指す新「今後 5 年間の方向性」の決定など、喫緊の課題に取り組む必要がありま
す。また、これまでの協力活動実践の歴史を踏まえ、「海外保健医療協力者会議」などでの
議論をいただきながら、新たなワーカー派遣の可能性を祈り求めていきたいと考えており
ます。

さらに、将来、新しい世代の人々に JOCS の運動を継承していただくことも視野に入れな
がら、日本の子どもたち（小中高生）と世界（特に、「プロジェクト・りとる」が展開され
つつあるバングラデシュ）の子どもたちを繋ぐプログラムの形成を模索してみたいと願っ
ております。

とは言え、これらの願いや計画は、皆様のご積極的なご提言や活動へのご参加なしには達
成することができません。皆様の変わらぬご協力とご支援を切にお願い申し上げる次第で
す。そして、JOCS の全ての働きが、神の御心に適うものでありますようにと祈るものです。

2. 2012 年度計画

＜総主事 大江 浩＞

「平和をつくり出す人たちは、幸いである。彼らは神の子と呼ばれるであろう。」

(口語訳：マタイによる福音書 5章9節)

● 平和と共生を目指す ～「宇宙船地球号」の乗組員として

世界は人口 70 億人の時代に突入しました。私たちは、「宇宙船地球号」という共同体の乗組員として、「共生」に向けてたゆまぬ努力を行うようチャレンジを受けています。

海外では、アフリカ・ソマリアの飢餓危機や EU 諸国の金融危機などの深刻な事態を迎え、また「アラブの春」、「ウォール街を占拠せよ」に象徴される独裁やグローバル化と格差拡大に反旗を翻す若者や市民の運動を目の当たりにしました。いつか世界を覆う憤りと不寛容から解放される日が来ますように。

国内では、大地震・大津波・原発事故による複合災害による自然の驚異と原子力の脅威に苦しんでいます。私たちは生き方・暮らし方を見直す岐路に立たされています。経済格差や若者の失業、そして「無縁社会」も大きな問題です。JOCS は、混迷深まり不透明な未来に揺れる時代にあって、それでもなお互いの命を尊重し、平和を目指すものとして、人々の命を支えることを通して役割を果たしていきたいと思えます。

● 「みんなで生きる」 ～国内外のパートナーと共に

JOCS は、その半世紀を超える海外保健医療協力の歴史を振り返る時、先達の祈りと医療奉仕に深く思いを致す一方、この間、私たちの働きが必要とされる状況が続いたことの現実とも向き合わざるを得ません。

現在の JOCS の海外事業は、ワーカー派遣・奨学金支援に加え協働プロジェクトという 3 つの柱で構成されています。今年度開催予定の海外保健医療協力者会議は「JOCS のこれから」を語る貴重な機会です。途上国の医療者や医療事情を取り巻く変化やニーズを的確に捉えながら、海外のパートナー団体と共に「JOCS は何をなすべきか・何ができるか」、私たちの働きの意味を問い、その在り方をしっかり考えていきたいと思えます。

派遣ワーカーや現地の奨学生やその先輩たちは、日本の私たちと途上国の草の根の人々をつなぐ「架け橋」です。それぞれの活動地にあって、状況を変えていく「触媒」的な存在であり、私たちの大切なパートナーです。また会長が「新年度の抱負」に掲げているように、子どもたちも新しいパートナーとして迎えたいと思えます。日本の子どもたちと海外の子どもたちが、「サンガイ・ジウナコ・ラギ (みんなで生きる)」を目指して、国境を越えて「いつか世界を変えていく仲間となる日」が来ることを切に願っています。

● 東日本大震災 ～国内の人々の苦難に寄り添う

東日本大震災では、日本の国際協力 NGO の多くが国内の災害支援にその力を発揮した年

となりました。JOCS もまた被災者支援を続けています。私たちは活動の過程で、途上国の医療過疎地での経験が日本の東北の被災地でも活かされていると感じています。国境の分け隔てなく、国内においても、人々を待つのではなく人々のもとへ赴く、そして悲しみや苦しみに寄り添うことの大事さを再認識しました。つながる・分かち合うことの大切さにも、改めて教えられています。JOCS は、このたびの大震災で、カリタス釜石と協働するなど、海外での活動同様に、国内でも宗教や教派を超えた「一致」を目指す働きを進めています。

JOCS は、被災し苦難にある人々のため、地元の人たちの思いを第一に考え、今後も活動を続けます。

● 確かな歩みを ～信頼に値する「公益社団法人」として

JOCS は、内閣府の認定により昨年 4 月から「公益社団法人」として新たな一步を踏み出しました。また国際協力 NGO センター (JANIC) のアカウントビリティ・セルフチェックテスト (組織の自己診断テスト) で認証を得ました。認定にふさわしい団体として歩むと共に、そのことを通して浮き彫りとなった事業計画や評価といった課題を真摯に受け止め、改善に努めていきたいと思ひます。

同時に、キリスト教精神を基盤とする団体として、これからもより一層教会やキリスト教学校・諸団体との連携やネットワークを強め、イエス・キリストに示された使命実現のため、歩みを強めたいと思ひます。

<重点課題と取り組み>

(1) 貧しくされ、虐げられ、差別され、必要な助けから遠ざけられている人々と共に生きる。

- ① 2012 年度は、現行の「今後 5 年間の方向性」の方針を継続する。
- ② 新しい「今後 5 年間の方向性」は 2013 年開始を目途に、今年度中にアクションプランを策定する (9 月下旬に原案を作成する)。
 - 新「今後 5 年間の方向性」のステートメントは、「女性と子ども／障がい者／少数民族／HIV に影響を受けた人々／医療の過疎地にある人々」を重点対象とすることが決定している。
- ③ 第 5 回海外保健医療協力者会議 (12 月末の予定) にて、新「今後 5 年間の方向性」のアクションプランの確定と共に JOCS の今後の事業方針について協議・検討を行う。
- ④ 公益社団法人の定款に基づき、基本方針と実施要綱 (P&P) の改定案を作成する。

(2) 事業の充実を図る。

- ① 3 カ国へ、8 名 (短期・シニアを含む) のワーカー派遣を通して、地域に根ざし、人間に根ざした保健医療協力活動を行う。
- ② 6 カ国 74 名の研修・奨学生支援を通して、現地の保健医療従事者と協力団体の能

2. 2012 年度計画

力強化に寄与する。

- ③ Project “LITTLE”*（協働プロジェクト）を推進する。
*“LITTLE” = “Living together with the People”
 - ・3年目を迎えるバングラデシュでの学校保健教育（現地協力団体：BDP）の展開を支援する。
 - ・新しい協働プロジェクトの可能性を探る。
- ④ 日本の子どもたちに世界の状況を知らせ、参加の機会を提供する。
- ⑤ 使用済み切手運動 50 周年（2014 年度）の準備を開始する。

（3）組織の活性化に努める。

- ① 最大の課題は、会員増強・寄付拡大と単年度収支差額の縮小である。また事業構造の変革を視野に入れ、中長期的な財政健全化に努めたい。
- ② 理事会の在り方（開催頻度や運営方法）を見直す。
- ③ 理事会の諮問機関として運営協議会（年 2 回）を開催する。
- ④ 次世代の担い手（理事・委員候補者）の発掘に努める。
- ⑤ 日本キリスト者医科連盟（JCMA）との協力関係を強め、教会、キリスト教学校・諸団体とのつながりを深める。

（4）東日本大震災の被災者支援を継続する。

- ① 宮城県仙台市（協力先：教団東北教区センター・エマオ）、岩手県釜石市（協力先：カリタス釜石）での支援活動を継続する。
- ② 福島県いわき市などでの支援活動を開始する。

3. 海外諸活動

[3-1] 海外派遣

(1) バングラデシュ・ワーカー 宮川眞一（医師）

派遣先：CHC（Christian Hospital Chandraghona）

今年度9月末で、第二期の任期を終了し、CHCでの活動を終了する。

通常業務を継続しつつ、これまでに導入したシステム等が継続されるような環境整備に重点をおく予定である。

① 病院・診療業務・医師看護教育

- 1) メタボリック外来：現地医師が患者の糖尿病手帳を活用できるよう指導。徐々に外来患者を引き渡して行く。
- 2) 病棟システム：入院治療システムの再検討。糖尿病入院時のクリニカルパスの作成。マラリア・有機水銀中毒・チフスなど当院で一般的な疾病につき標準化したパスの作成を試みる。
- 3) 救急医療環境整備・教育：救急処置用機器の有効活用を現地医師にさらに教育する。看護師を中心に、徹底されていない機器のメンテナンス・救急薬剤の管理責任の所在をはっきりさせ、修理・維持できるようにする。
看護学生・スタッフへの救急処置トレーニングを再度実施する。
- 4) ペインクリニック：簡単な神経ブロックをマニュアル化し、現地医師に教育する。
- 5) 看護教育：「なぜ」「何を」「いかに」の思考訓練。心理的アプローチを含む「ケア」の姿勢のトレーニング。救急処置の現地教育。これらを継続。
- 6) 精神保健領域：バングラ版うつ病の心理テスト活用を再度アピールする。自殺企図者の原因リサーチ継続。
- 7) 栄養教育・病院食：経済的な理由で食事の用意が困難な患者さんに対して「フードフレンド」の構想を検討する。
- 8) 輸血について：a) 適用の是非の検討、b) インフォームド・コンセントの検討。
- 9) リハビリテーション分野：リハビリ回診。退院後の患者 ADL も視野にいたした訓練、看護・医療ケア教育継続。糖尿病患者の運動療法のメニュー作成。
- 10) 上部消化管内視鏡検査：定期検査継続。退任後の運用方法を検討。
- 11) 腹部エコー検査：ルーティン検査が出来るレベルまで最低1名の内科系医師を指導する。

② 地域保健医療（Community Health Project : CHP）

これまでの活動の成果を把握する。

③ 医療廃棄物問題

病院環境委員会の開催。システム継続方法の検討。

④ その他：退任後のCHCへの関わり方について検討。

3. 海外諸活動

(2) バングラデシュ・ワーカー 山内章子 (理学療法士)

派遣先：マイメンシン テゼ共同体

① マイメンシン県

1) PCC (Protibondhi Community Centre、旧名称 CCH)

- ・ 昨年 10 月に開始された CP (Cerebral Palsy、脳性麻痺) デイケア事業が継続プログラムになるよう支援する。具体的には、遊びが発達支援に結び付けられるようスタッフを指導すること、このプログラムにおける海外支援者へのレポートをスタッフが書けること、児の発達評価の支援など。
- ・ こうしんこうがいれつじ口唇口蓋裂児の術前術後のリハビリテーションを開始する。それに先立って対象児のリサーチ、評価表作り、担当スタッフの選定と教育、プログラムの作成を行う。
- ・ スタッフ教育の継続。
- ・ 外来用の治療経過表の作成と定着化。

2) ムクタガチャ支部

- ・ 専属事務員が解雇された後、リハビリテーション対象児の名簿を作成していないことが露見し、現在 50 人の子どもの住所が不明である。子どもたちを探す方法を検討する。
- ・ 昨年 10 月に CP デイケアをオープンさせるため、2 ヶ月近く支部のリハビリテーションがクローズになった。その為、現在ほとんど子どもが来ていない。リハビリテーションが週に一度行われていることを、訪問によって地域に再度知らせていく。

② ダッカ県

1) Nyanogor のデイケア

2) MC (Missionary of Charity) Mission (マザー・テレサのミッション)

- 1) と 2) は、SMSM Sisters のプログラムである。今年度より石本馨短期ワーカーの赴任が決定しており、同氏の着任までの間、児へのリハビリテーション提供とリハビリテーションスキルの指導を継続する。特に講義などは行わない。同氏の着任直後は同氏のサポート、および要請に応じて理学療法士として関わる予定。

3) Shanti Nir

韓国人女性主催のデイケア・プログラムである。センターの運営が混とんとしており (被雇用者が次々に辞めてしまう)、経過観察。関わり方はテゼ共同体のブラザー・フランクと相談しつつ検討していく。

③ タンガイル県 (カイラクリ・クリニック、Kailakuri Clinic)

- 1) カイラクリ・クリニックにおける、リハビリテーションの在り方を検討する。現在は山内が訪問した時のみ担当スタッフがかかわっており、担当スタッフの時間の使い方など乾ワーカーとの相談を含め、方向性を決定していく。

2) スタッフ教育の継続。

④ ディナジプール県：Dhanjuri Leprocy Centre 内ホステル

- 1) 入所児の成長の評価。
- 2) スタッフ教育の継続。
- 3) スタッフの活動状況の評価と活動範囲拡大の可能性の現地評価。
- 4) 外来専門リハビリテーション施設の可能性を検討する。
- ⑤ ラッシャヒ県：ブタハラ村、ボラル村（施設なし。3名のスタッフがフィールド活動している）
 - 1) スタッフの活動状況の評価。
 - 2) スタッフ教育の継続。
 - 3) 活動形態の評価のための現地訪問。
- ⑥ その他

現在、マイメンシン県ビリシリ、クルナ県のチャルナよりそれぞれ教育とセラピーの要望が来ている。現地訪問を行うとともに、今後の可能性（新しいワーカーの派遣地の開拓という意味で）を調査していく。他にも要望があれば応じていく。

（3）バングラデシュ・ワーカー 岩本直美（看護師）

派遣先：テゼ共同体（ラルシュ マイメンシン・コミュニティ）

- ① 組織運営の強化
 - 1) ラルシュ・コミュニティの理事に、ラルシュについてさらに理解していただき、その職責（地域にラルシュについて知っていただくこと、そして運営資金の調達など）を具体的に履行していただけるよう、働きかける。
 - 2) 定款に沿って、アシスタントや雇用者の就業規定や福利厚生などについて、基本となるものを作成する。
 - 3) 国際ラルシュ連盟より選任されバングラデシュ担当となっているコーディネーターや、国際ラルシュ連盟、そしてマイメンシン・コミュニティ、特に理事たちとのコミュニケーションの質を高める。
 - 4) バングラデシュの政府機関や、民間団体そしてテゼコミュニティとの協働を強化する。
 - 5) ラルシュを支援していただける専門分野の方々との、ネットワークづくりを図る。
 - 6) コミュニティの「土地」購入に関し、国際ラルシュ連盟と理事会が合意し、具体的な将来構想を持てるように働きかける。
 - 7) 2つ目のコミュニティづくりの可能性を、模索する。
- ② コミュニティ運営
 - 1) コミュニティで作成した5年の覚書（2011年～2016年）に沿い、2012年の達成課題を選択し、それを遂行する。特に障がいのあるメンバーたちの個性と賜物をさらに育み、コミュニティ運営の意思決定にも更に参加出来るよう支援する。
 - 2) メンバー相互の関係性の質を高める。

3. 海外諸活動

- 3) 前年度採用した会計兼事務担当者の仕事内容の質を高める。
 - 4) 任期終了となる家の責任者たちの評価と次期の識別を行う。
 - 5) 創立 10 年の記念行事を行う。
 - 6) 5 年ごとに開かれる国際ラルシュ連盟の総会に参加し、ラルシュ及びラルシュマイメンシンの位置を確認し、今後の方向性について確認する。
 - 7) ワークショップの活動を支援していただける人材を求める。
 - 8) アシスタントの養成プログラムを強化する。
- ③ パートナーシップ
- 1) JOCS とマイメンシンのラルシュ及びテゼにおいて、それぞれの相互理解を深める。
 - 2) 日本やフランス、またその他の国々のラルシュや「信仰と光」と繋がり深める。

(4) タンザニア・シニアワーカー 倉辻忠俊 (医師)

派遣先：タボラ大司教区保健事務所、イプリ・ヘルスセンター

タボラ大司教区傘下 10 の保健医療施設の活動の強化と改善を行うことにより、医療に恵まれない人々にも医療サービスを届け、地域の人々が協力し合いながら生き生きと生活を享受できることを目標とする。前年度と同じく、原則として大司教区保健事務所週 3 日、イプリ・ヘルスセンターで週 3 日活動する。

① 大司教区保健事務所

- 1) 保健管理会議：年 2 回開催し、2) 以下の項目を中心に協議し、各施設の医療サービスの向上と管理運営の改善を行う。
- 2) 官民協力 (PPP) 推進：タボラ州保健局と連携し、人事・予算を有効活用できるよう調整する。特に予算面でコモン・バスケットの利用の仕方を各施設にわかり易く説明し積極的に利用できるようにする。
- 3) 医療監視：四半期毎に目的を定めて医療管理視察を行う。方法や項目は保健省の方式に合致させ、州保健局専門官を 1 人視察員に入れる。
- 4) 医療統計：四半期の医療記録を保健医療施設から集めて分析・評価し、各施設にフィードバックする。結果をまとめ報告書として当該保健医療施設の他、州保健局、保健社会福祉省、関連機関に配布する。
- 5) 保健医療セミナー：医療監視、医療統計で早急に改善強化した方がよい項目について、2～3 日のセミナーを開催する。
- 6) 国際標準：タンザニアの医療標準は多くの項目で国際標準と異なる。保健社会福祉省で解決が難しい問題（必須医薬品の国際基準、小児発育発達評価の国際基準、小児疾患治療法の国際標準など）は国際機関と協力して改善に努める。

② イプリ・ヘルスセンター

- 1) 診療協力・指導：医療研修は現場指導が最高の効果を生むので、病棟、外来において

診療時指導を行う。

- 2) カンファレンス：週 1～2 回、重要項目に焦点を当てたカンファレンスを行い、診療の問題点を整理する。
- 3) 検査室の充実：保健社会福祉省の臨床検査協議会と協力して、検査の精度管理、精度保証を実施する。
- 4) 職員会議：定期的実施し、問題点の早期把握とその解決に努める。また、患者の投書箱の意見を十分に理解し、その改善に努める。

(5) パキスタン・ワーカー 青木盛（医師）

派遣先：聖ラファエル病院（St. Raphael's Hospital）

① 聖ラファエル病院での業務

1) 外来

- ・ 小児科を担当。
- ・ 月曜日から土曜日の診療を継続。その他時間外の診察。

2) 小児の入院

- ・ 診察、治療にあたる。
- ・ 小児患者の入院に対応できる設備や、児の観察の改善など図る。

3) 新生児室

- ・ 診察、治療にあたる。

② 教育：助産師学校学生へのレクチャー

③ 奨学金：新規申請者の支援

[3-2] 短期ワーカー派遣

短期ワーカーとして、昨年度に引き続き乾眞理子医師を、バングラデシュのタンガイル県カイラクリにあるカイラクリ・ヘルスケア・プロジェクト（カイラクリ・クリニック、Kailakuri Clinic）に短期派遣する予定である。2012 年度内に 2 回、計 6 ヶ月の派遣を計画している。

タンザニアのタボラ大司教区には、宮尾陽一医師を約 1 ヶ月派遣する予定である。

また、新規の短期ワーカーとして、石本馨作業療法士を、バングラデシュのダッカを中心として活動する SMSM Sisters のアノンドニール（喜びの家）プロジェクトに、3 ヶ月の派遣を 2 回、計 6 ヶ月派遣する予定である。

3. 海外諸活動

[3-3] 研修生・奨学金支援

2012年度は、インドネシア 10名・ネパール 19名・バングラデシュ 5名・インド 4名・ウガンダ 19名・タンザニア 17名の計 74名を支援する予定である。詳細は 2012年度奨学生一覧（11～15 ページ）を参照。

[3-4] 協働プロジェクト（プロジェクト・りとり）

・BDP 学校保健教育プロジェクト（バングラデシュ）

今年度はバングラデシュの学校保健教育プロジェクトの 3 年目にあたる。このプロジェクトはバングラデシュの学校教育 NGO「BDP」との協働事業であり、昨年まで対象 14 校の保健教育担当教員に向けた講習を行ってきた。

今年度は学校での保健教育の授業を開始するとともに、担当教員に向けた講習も随時行っていく。また、生徒たちの母親向け講習会、小学校を卒業した思春期女子に対する講習会も開催する。

その他、ダッカ地区、プバイル地区で生徒たちを集めたヘルスフェスティバルの開催、生徒の身体計測、健康診断（聴診）の実施を行う。

インドネシア

名前	性別	年齢	職業	所属団体名	研修機関	研修内容	研修期間
Mr. Frits Lexi Meinker Motjai	男	23	学生	GKST	SAM Ratulangi University	医学	2007年7月 ～ 2014年6月
Mr. Mardianus Tado'u	男	25	薬局スタッフ	GKST	Samratulangi University, Manado	医学	2007年7月 ～ 2014年6月
Mr. Panca D. Dese	男	44	看護主任	GKST	STIK Central Java, Yogyakarta, Bethesda	看護学修士	2011年9月 ～ 2014年8月
Mr. Iver Sudipi	女	25	看護師	GKST	PGI Cikini Hospital	外科マネージャー ト	2012年8月 ～ 2012年11月
Ms. Ferdienka Amiran	女	30	看護師	GKST	STIK Indonesia, Institute of Medical Science	看護学修士	2011年11月 ～ 2012年11月
Ms. Aprilin Poakalose	女	28	看護師	GKST	STIFA Pelita Mas, Palu	薬学	2011年6月 ～ 2015年8月
Ms. Yuliana Najaya	女	25	看護師	GKST	Stikes Husada Mandiri, Poso	助産学	2011年6月 ～ 2014年9月
Ms. Kristin Natalia	女	19	事務	GKST	Stikes Husada Mandiri, Poso	助産学	2012年6月 ～ 2015年9月
Ms. Katrina Nono	女	32	薬局スタッフ	ICAHS Lindimara Hospital	Politeknik Kesehatan Kupang	薬学	2010年6月 ～ 2013年6月
Ms. Christin Kusumawati	女	35	看護師	ICAHS William Booth Hospital	STIKES Hang Tuah, Surabaya	看護学	2010年9月 ～ 2013年4月

ネパール

Dr. Min Bahadur Thapa	男	40	医師	Anandaban Hospital	Kathmandu University	放射線診断	2010年9月 ～ 2013年9月
Mr. Jaganath Maharjan	男	40	理学療法士助手	Anandaban Hospital	Doon Paramedical College and Hospital	理学療法	2010年7月 ～ 2015年1月
Ms. Jayanti Kumari Niroula	女	38	看護師	Anandaban Hospital	Lalitpur Nursing Campus	看護学	2011年11月 ～ 2013年11月
Mr. Tilak Bahadur Kumar	男	32	地域保健・公衆衛生	HDCS Chaurjahari Hospital	Kaipal Health Academy, Nepalgunj Bank Nepal	公衆衛生補助	2010年7月 ～ 2013年7月

3. 海外諸活動

名前	性別	年齢	職業	所属団体名	研修機関	研修内容	研修期間
Dr. Kaleb Kumar Budha	男	28	医師	HDCS Chaurjahari Hospital	National Academy of Medical Sciences	小児医学	2011年9月 ～ 2014年9月
Mr. Chandra Giri	男	41	薬局スタッフ	HDCS Chaurjahari Hospital	Kailpal Health Institution	薬学	2011年9月 ～ 2014年8月
Ms. Shanti Jirel	女	28	准助産師	HDCS Chaurjahari Hospital	Lalitpur Nursing Campus	看護学	2011年9月 ～ 2014年8月
Mr. Kapil Presad Jaishi	男	39	事務	HDCS Chaurjahari Hospital	National Open College	公衆衛生	2011年12月 ～ 2014年11月
Mr. David Thagunna	男	28	検査技師	HDCS TEAM Hospital	Bharatpur School of Health Sciences	検査技師	2009年11月 ～ 2012年10月
Mr. Amar Singh Bahat	男	24	検査技師助手	HDCS TEAM Hospital	Kalitpur Institution of Health Science	放射線学	2010年9月 ～ 2012年8月
Ms. Karna Rai	女	30	看護師	HDCS TEAM Hospital	Yeti Health Science Academy	看護学	2011年2月 ～ 2013年1月
Ms. Kalpana Silwal	女	32	看護教師	Lalitpur Nursing Campus	Tribhuvan University, Institute of Medicine	看護学修士	2010年12月 ～ 2012年11月
Ms. Ratna Kumari Maharjan	女	43	看護師	Patan Hospital	Lalitpur Nursing Campus	看護学修士	2010年7月 ～ 2012年6月
Ms. Apsara Gurung	女	24	准看護師	Tansen Nursing School	Hope International College	看護学	2011年1月 ～ 2012年12月
Ms. Monima Chaudhary	女	23	教師	Tikapur Christiya Mandali Church	Nepalgunj Nursing Campus	看護学	2009年12月 ～ 2012年10月
Ms. Asha Rawal	女	17	看護師	Tikapur Christiya Mandali Church	Far-West Technical College	看護学	2010年9月 ～ 2013年8月
Mr. Ankit Raj Gurung	男	22	学生	UMN	Nepalgunj Medical College	医学	2009年8月 ～ 2013年2月
Ms. Kumari Maya Thapa Magar	女	46	助産師	UMN Tansen Mission Hospital	Tansen Nursing School	看護学	2009年10月 ～ 2012年9月
Ms. Bimala Khatri	女	42	准助産師	UMN Tansen Mission Hospital	Tansen Nursing School	看護学	2010年9月 ～ 2013年8月

バングラデシュ

名前	性別	年齢	職業	所属団体名	研修機関	研修内容	研修期間
Mr. Marma Bijoy	男	45	地域保健・公衆衛生	CHC	Atish Dipankar University	公衆衛生修士	2012年1月 ～ 2013年7月
Ms. Chanpa Das	女	20	無職	Mahamuni Bidhaba-O-Anath Sishu Kalyan Kendra	Christian Hospital Chandraghona	看護学	2010年1月 ～ 2013年1月
Ms. Barua Priyanka	女	18	無職	Mahamuni Bidhaba-O-Anath Sishu Kalyan Kendra	Christian Hospital Chandraghona	看護学	2012年1月 ～ 2015年7月
Ms. Mormu Silvia	女	23	修道女	PIME Sisters	Red Crescent Nursing Institute	助産学	2011年2月 ～ 2012年8月
Ms. Tripura Maria	女	22	修道女	PIME Sisters	Green Life Medical College	看護学	2011年2月 ～ 2014年2月

インド

Mr. David Livingstone J.	男	19	無職	Christian Fellowship Hospital	C.S.I. College of Dental Science and Research	歯学	2009年9月 ～ 2014年9月
Ms. Sathiya Priya Mumiandi	女	19	無職	Christian Fellowship Hospital	Sarah Nursing College	看護学	2009年9月 ～ 2013年9月
Mr. Joshua Paul	男	19	学生	Christian Fellowship Hospital	Christian Medical College, Vellore	臨床検査技術	2010年7月 ～ 2014年7月
Ms. Mariammal Andavan	女	18	学生	Christian Fellowship Hospital	Sankaralingam Bhuvanawari College of Pharmacy	薬学	2010年7月 ～ 2012年7月

ウガンダ

Mr. Lubaale Robert Musasizi	男	26	検査技師助手	Lugazi Mission Health Centre	Worldwide University College	HIV/AIDSカウンセリング・検査	2010年9月 ～ 2012年9月
Mr. Odoch Wilfred	男	27	看護師	Nebbi Church of Uganda Diocese	Mulago Paramedical School	麻酔学	2010年9月 ～ 2012年9月
Mr. Kawooya Patrick	男	29	検査技師	Reach Out	Mbarara University of Science and Technology	検査技師	2011年8月 ～ 2013年8月
Mr. Arinaitwe Edson	男	28	検査技師助手	Ruharo Mission Hospital	Mbarara Medical Laboratory Training School	検査技師	2011年6月 ～ 2013年6月

3. 海外諸活動

名前	性別	年齢	職業	所属団体名	研修機関	研修内容	研修期間
Mr. Gideon Bwambale	男	32	看護助手	Rwesande Health Center IV	Kagando School of Nursing and Midwifery	看護学	2010年5月 ～ 2013年5月
Ms. Kyomugisha Brenda	女	25	薬局スタッフ	UPMB Bwindi Community Hospital	Mengo School of Nursing and Midwifery	看護学	2011年5月 ～ 2012年11月
Ms. Komukama Annet Sanyu	女	34	看護師	UPMB COU, Kisizi Hospita I	Health Tutors' College Mulago	看護学教員	2010年10月 ～ 2012年10月
Ms. Kiisa Juliet	女	27	准看護師	UPMB Kinyamaseke Health Center III	Kagando School of Nursing	看護学	2011年5月 ～ 2012年11月
Mr. Syaipuma Moreshe	男	25	看護助手	UPMB Kinyamaseke Health Centre III	Kagando School of Nursing and Midwifery	看護学	2011年5月 ～ 2013年11月
Ms. Immaculate Prosperia Naggulu	女	39	看護教師	UPMB Kiwoko Hospital	International Health Science University	看護学	2009年9月 ～ 2012年9月
Ms. Yiga Rehemah	女	37	看護師	UPMB Kiwoko Hospital	Mulago School of Nursing and Midwifery	看護学	2011年5月 ～ 2012年11月
Mr. Mabira Kenneth	男	37	看護師	UPMB Kiwoko Hospital	Mulago School of Paramedics	麻酔学	2012年5月 ～ 2014年11月
Mr. Okurut Fred	男	28	准看護師	UPMB Kiwoko Hospital	Mulago School of Nursing and Midwifery	看護学	2012年5月 ～ 2013年11月
Ms. Angolikin Hellen	女	32	准助産師	UPMB Kumi Hospital	Mengo School of Nursing and Midwifery	助産学	2011年5月 ～ 2012年11月
Ms. Maraka Lucy	女	37	准助産師	UPMB Kumi Hospital	Jinja School of Nursing and Midwifery	助産学	2011年5月 ～ 2012年11月
Mr. Muyanja Andrew	男	25	検査技師	UPMB Nateete Archdeaconry Mobile Clinic	Mbarara University of Science and Technology	検査技師	2010年8月 ～ 2012年8月
Mr. Arinaitwe Edson	男	28	検査技師助手	UPMB Ruharo Mission Hospital	Mbarara Medical Laboratory Training School	検査技師	2011年6月 ～ 2013年6月
Mr. Kabughu Phedrace	男	26	看護助手	UPMB South Rwenzori Diocese	Kagando School of Nursing and Midwifery	看護学	2010年5月 ～ 2012年11月
Ms. Kighina Mbambu Alice	女	31	検査技師助手	UPMB South Rwenzori Diocese	Kasese Institute of Health Science	検査技師	2010年6月 ～ 2012年6月

タンザニア

名前	性別	年齢	職業	所属団体名	研修機関	研修内容	研修期間
Ms. Bertha John Makoye	女	22	看護助手	AOT Igoko Dispensary	Kolandoto School of Nursing	看護学・助産学	2010年9月 ～ 2013年9月
Mr. Paschal Peter Mashimi	男	23	検査技師助手	AOT Igoko Dispensary	Kolandoto School of Nursing	看護学・助産学	2011年8月 ～ 2014年8月
Ms. Rozalia Constantino Buholo	女	22	看護助手	AOT Igoko Dispensary	Kolandoto School of Nursing	看護学・助産学	2011年8月 ～ 2014年8月
Mr. Francis Fortune Tegete	男	25	学生	AOT Iputi Health Centre	Hubert Kairuki Memorial University	医学	2010年9月 ～ 2013年9月
Mrs. Therezia Joseph Migezo	女	39	看護助手	AOT Iputi Health Centre	Nkinga Nursing School	看護学	2011年8月 ～ 2014年8月
Mr. Andrew Makoye Luhola	男	32	検査技師助手	AOT Kaliua Health Centre	Nkinga School of Health Laboratory Sciences	検査技師	2010年8月 ～ 2012年8月
Ms. Agnes Michael Sylvester	女	19	看護助手	AOT Kaliua Health Centre	Sumve Nurses and Midwives Training School	看護学・助産学	2011年9月 ～ 2014年9月
Ms. Gaudencia Fredrick	女	29	検査技師助手	AOT Kaliua Health Centre	Catholic University of Health and Allied Science	検査技師	2011年10月 ～ 2014年10月
Sr. M. Magreth Peter Nyamizi	女	29	看護助手	AOT Kipalapala Dispensary	Dareda Nursing Training School	看護学・助産学	2009年9月 ～ 2012年9月
Ms. Hadijja Yassin Mrisho	女	22	看護助手	AOT Kipalapala Dispensary	Kolandoto School of Nursing	看護学・助産学	2011年8月 ～ 2014年8月
Ms. Devotha Tiho Mayombya	女	22	看護助手	AOT Lububu Dispensary	Kolandoto School of Nursing	看護学・助産学	2010年9月 ～ 2013年9月
Ms. Sophia Charles Malale	女	29	看護助手	AOT Lububu Dispensary	Kabanga School of Nursing	看護学・助産学	2011年9月 ～ 2014年9月
Sr. Nyanzobe Christina Mathias	女	32	診療所受付・庶務	AOT Mwanzugi Dispensary	Kolandoto Nurse Midwife Training Centre	看護学・助産学	2009年9月 ～ 2012年9月
Mr. Dunstan Salu Mabala	男	30	事務	AOT Mwanzugi Dispensary	Bugando Medical Centre	臨床カウンセリング	2011年8月 ～ 2012年4月
Ms. Liberator Kabura	女	26	学生	AOT Ndala Hospital	Edgar Maranta School of Nursing	看護学	2009年9月 ～ 2012年9月
Sr. Christina Njendela Mapunda	女	31	学生・シスター	AOT Ndala Hospital	Hubert Kairuki Memorial University	医学	2009年9月 ～ 2012年9月
Ms. Maria Simon Mnimbo	女	24	看護助手	AOT Ndala Hospital	Kolandoto School of Nursing	看護学・助産学	2010年8月 ～ 2013年8月

4. 国内諸活動

[4-1] 国内活動全般

今年度は子どもへのアピール、地区 JOCS 活動のサポート、また東京のつどいを開催し、国内活動の充実を図る。支援者、その他 JOCS の活動を知らない方々へ向けて活動紹介に努める。

(1) 子どもを対象にした活動

昨年度、青山学院初等部で実施した子どもへ向けてのワークショップを今年も開催する。途上国で抱える保健医療問題について触れ、健康とはどういうことか、健康であるために必要な条件とは何かを一緒に考え、世界には病気になっても病院が遠かったり、薬が手に入らなかつたりして、病気を治せない人もたくさんいることを、ワークショップを通して子どもたちに考えてもらうことを期待する。またこのワークショップを継続して実施することができるよう、実施できる学校を新たに開拓する。

(2) 東京のつどい 日野原重明氏講演会

2013年3月23日(土)に東京のつどいとして、日野原重明氏(聖路加国際病院理事長)の講演会を開催する予定である。

(3) ワーカー活動報告会

宮川眞一ワーカーが第二期を終えて帰国し、10月から3月まで各地で活動報告会を行う予定である。また、倉辻忠俊シニアワーカーが、任期終了後、1月から3月まで活動報告会を行う予定である。

(4) 地区 JOCS 活動支援：大曲・仙台・足利・町田・京都・大阪・神戸・芦屋・播州・岡山・四国高知

各地区において、ワーカー報告会やチャリティコンサートなどの催し物が開催される予定である。現段階で予定されている今年度の地区イベントは以下のとおり。

4月14日 京都 JOCS チャリティウォークソン (鴨川河川敷)

6月24日 芦屋 JOCS のつどい(芦屋山手教会) 宮尾ワーカー報告会

7月28日 京都 JOCS チャリティコンサート (京都コンサートホール)

[4-2] ワーカー育成活動全般

今年度も、JOCS のワーカーの発掘・育成と、海外保健医療協力の芽を広く育てるため、海外保健医療勉強会と海外保健医療協力セミナー、スタディツアーを開催する。

具体的には、海外保健医療勉強会は参加者も比較的多く集まるため、従来の3~4回より増やし6回程度(うち1回はフィールド勉強会)を予定し、関西地域での開催も検討したい。海外保健医療協力セミナーは2012年秋頃に、スタディツアーは7~8月に南インドへ、開催を予定している。

[4-3] 東日本大震災被災者支援

2011年3月11日に発生した東日本大震災を受け、JOCSでは昨年度から被災者支援の活動を行っている。今年度は以下の活動を行う。

(1) 宮城県仙台市

① 被災者支援のためのスタッフ雇用サポート

被災者支援に協力する日本基督教団東北教区センター・エマオの活動を支えるために、昨年度からの継続事業として、そのスタッフの人件費をサポートする。

(2) 岩手県釜石市

① 看護師チームの派遣

昨年度からの継続事業として、看護師チームを岩手県釜石地区に派遣し、仮設住宅や孤立集落の在宅被災者のための訪問ケア活動などを行う。

② カウンセラー派遣

昨年度からの継続事業として、カリタス釜石（カトリック釜石教会）の「心のケア」チームに協力する形で、カウンセラーを派遣し教会および仮設住宅での傾聴活動などを行う。また、地元の要請に基づき、ケアのための研修を開催する。

(3) 福島県いわき市

① 仮設住宅集会所での健康相談

いわき市内仮設住宅集会所に保健医療従事者を派遣し、健康相談を実施する。189戸（148世帯、378人）の住民の方々が対象である。月2回から始め、状況によっては回数を増やすことを検討する。

② 支援スタッフケア

被災者支援活動を行っている団体スタッフに対する心理ケアについて、実施する方向で準備を進めていく。

③ 子どもキャンプ

原発事故による放射能汚染の心配から外遊びが制限されている子どもを対象とした教会学校キャンプの開催について、実施の可能性について関係者との協議を進める。

[4-4] 広報全般

今年度も広報活動の充実を図り、会員増強に努める。具体的な活動は以下の通り。

(1) 「みんなで生きる」の企画・編集

- ・ 隔月の偶数月の発行とし、16ページまたは20ページで、情報量にあわせてページの増減をしつつ編集を行う。
- ・ ワーカーの活動をわかりやすく具体的に伝えるように努める。
- ・ 新しい会員のために、JOCSの目的や歴史なども改めて随時紹介したい。
- ・ 読者のアンケートや質問を大切にして読者との交流を図り、紙面づくりに活かしたい。
- ・ 若年層も関心が持てる記事や紙面づくりも工夫したい。

4. 国内諸活動

- ・ 子ども号の内容は時間をかけて検討する。対象年齢をしぼるかどうかなども検討する。
- ・ ホームページとの連携を強くし、それぞれの特色も活かしたい。

(2) ホームページ

使用済み切手運動への協力ページに、外国コイン・紙幣、日本の古銭や旧紙幣の収集に関する情報を新たに掲載する予定。また切手運動の情報から、入会へつなげて行けるコンテンツ作成を目指したい。その他、JOCSに関する資料類のコンテンツの充実を図っていく予定。

(3) 「JOCS フォーラム」

今年度は、青木盛ワーカー、山内章子ワーカー、諏訪恵子ワーカー、宮尾陽一短期ワーカー、乾真理子ワーカーの各報告書、及び海外保健医療勉強会での講演原稿を掲載予定。5月19日のJOCS社員総会にて配布する予定である。

(4) ボランティアテックの活動

昨年度に引き続き、「みんなで生きる」表紙写真展及び「1ルピーの贈りもの」絵本原画展を開催予定。今年度は、東北地方（仙台・盛岡）で開催したい。

今年度はワーカーの活動記録のためにボランティアフォトグラファを派遣する予定はないが、国内活動の記録のための写真撮影に協力する。

年に2回ミーティングを開催し、広報資料の充実に努め、良い写真を記録として残せるよう、研鑽を積む。

[4-5] 募金

2012年度の募金目標額は1億520万円とする。

ワーカーの帰国報告会や地区のイベントなど、年間を通して活動をアピールしていく。クレジットカードによる募金も、さらに広く知られるよう、ホームページや会報を通してお知らせをする。例年同様に夏期募金は「みんなで生きる」6・7月号に募金趣意書（払込用紙込み）を封入し、年末募金では、詳細を記載した募金趣意書と払込用紙を封書にて発送する。いずれも送付先は会員やご寄付で協力をいただいている個人、教会や学校、保育園、幼稚園、友の会等。以上に加え、今年は切手協力者宛へも別途募金のお願いを発送する予定である（3年毎に実施）。また、キリスト教雑誌（「信徒の友」、「百万人の福音」）の広告を用いて活動を告知し、夏・冬には募金協力をお願いする。

[4-6] 使用済み切手運動

2012年度は、JOCSへの切手協力をいただいた団体の団体名を、ホームページ上で1ヵ月分を毎月まとめて公表する予定である。

また、使用済み切手と併せて、外国コイン・紙幣あるいは日本の古銭収集にもさらに力を入れたい。

予定 4月27(金)～4月29日(日) 浅草スタンプショウ
5月15日(火)～16日(水) 広島スタンプショウ
9月(日程は未定) 高知スタンプショウ

切手タスク：

昨年度に引き続き、「国際協力切手まつり」の開催地を公募し、2～3カ所での開催を企画する予定である。

[4-7] JOCS 関西バザー

今年度は5月12日(土)に大阪聖パウロ教会にて第18回 JOCS 関西バザーを開催する。今回も「切手を持ってバザーに行こう」をキャッチフレーズに、物品販売、食べ物コーナーなど楽しいイベントを企画している。

[4-8] 50周年記念事業

(1) 50周年記念誌

<50周年記念誌編集委員会>

小澤英輔(委員長)、田村光三(監修)、阿部淳子(整理・校正)、
市川邦雄(制作/コイノニア社)、大江 浩(事務局)

現在制作中の JOCS 50周年記念誌の全体的な構成は、下記の通りである。

<JOCS 50周年記念誌の主な内容>

第I部：総論

1章：私たちはなぜ平和を求めるとのか～JOCS 50周年記念誌に寄せて

2章：国際協力、草分けとしての JOCS～故塩月賢太郎氏の論考から

第II部：JOCS の歩み～80年代半ばから2010年に至るまで

1章：海外での保健医療協力(計4節)

2章：プログラムの多様化(計4節)

3章：事業と組織(計5節)

第III部：資料編

1章：過去25年における世界の保健医療問題、そして援助の変化

2章：共に歩んだ方からのメッセージ(計5節)

3章：インタビュー編(計2節/佐藤智氏・川原啓美氏)

JOCS 年表(1938年～2010年)

昨年度の事業報告でも述べたが、本誌はいわゆる「50年通史」ではなく、1980年代半ば以降の約25年間に焦点を当てている。一連の制作過程を通じて、JOCS の歩みとその時々

4. 国内諸活動

に直面してきた課題と、それらの課題を乗り越えてきた多くの方々の歴史を学んでいる。
2012年度社員総会での配布を目標としている。

- (2) 「みんなで生きる」表紙写真展& 「1ルピーの贈りもの」絵本原画展
今年度は、東日本大震災の被害を受けた盛岡、仙台で写真展を開催する予定である。

5. 運営会議

[5-1] 社員総会

第51回社員定期総会を、早稲田奉仕園リパティホールにて、2012年5月19日(土)に開催する。

[5-2] 理事会

今期(2012~2013年度)の理事候補者及び監事候補者は次のとおりである。2012年5月19日(土)の社員定期総会にて選出予定である。

[理事候補者]

小島莊明、畑野研太郎、植松 功、大友 宣、高梨愛子、仁科晴弘、平本 実、
渡部芳彦

大江 浩(総主事)、川口恭子(海外担当主事)

[監事候補者]

小澤英輔、辻本嘉助

[5-3] 運営協議会

本年度も中長期的な運営方針や事業のあり方を検討するため、運営協議会を2回開催する。検討内容は定例理事会で検討する。

[5-4] 委員会

<関西地区活動委員会>

- ① 委員会は2ヵ月に一度の頻度で、JOCS 関西事務局にて開催予定。
- ② 関西 JOCS2012 の集いに関しては、今後委員会で話し合っていく。現在は未定。
- ③ バザーは5月12日(土)大阪聖パウロ教会にて開催予定。

<研修生・奨学金委員会>

① 奨学金支給対象者の決定

JOCS 海外研修生奨学金規定に則り、今後も地域の保健医療向上のために草の根レベルで尽力すると思われる奨学生を優先し、現地のニーズに適切に応えられるような選考を行う。

② フォローアップの強化

年間計画に基づいて、奨学金支給者を訪問し、奨学生の所属団体と話し合うことにより、奨学金の適正な使用とその効果についての評価を実施する。

③ 奨学金活動の広報

機会をとらえて、会報・募金趣意書・ホームページなどで、より積極的に奨学金活動を支援者にアピールする。

④ 奨学金制度の定期的な検証

奨学金予算の規模・支給費用の範囲・選考の回数などについては、定期的に妥当性を検証していく。また、新たな関連団体の承認要請があれば、その都度協議する。

<国内活動委員会>

会員増強・支援者及び寄付拡大のための対策の協議と実施を中心に取り組む。

<財務委員会>

公益社団法人格を得た JOCS は、活動の公益性とそれを支える財務の透明性と健全性を常に市民社会に対して開示していかなければならない。

今後 10 年間の財政見通しと事業モデルについては、これまでの財務委員会ででもくりかえし協議してきた。JOCS の働きにあって、単年度の財務の均衡はどの程度の重要性をもってとらえられるべきなのか、そもそも事業モデルに沿った運営が可能であるのか、今期も協議したい。支出費目ごとのバランスや事業バランスについても、モデルとしての数字を検討する段階にまで達している。重要なことは、このような協議を財務の視点から繰り返し行い、理事会に対して答申を重ねていくことである。

単年度の収支差額 2,000 万円超（赤字）については、海外保健医療協力資金からの取り崩しにより補填しているが、中長期的な施策の検討が必要である。活動を安定的に支える会員数の増加や寄付金の拡大のための工夫や働きかけは継続的な課題である。他方、公益目的の保有財産の管理運用についても、今後検討が必要になるであろう。

ワーカーや職員の待遇についても、法令の基準を満たしつつ、現在の財務状況を勘案し、合理性や整合性のある規程を整備していく必要がある。

<ワーカー育成委員会>

より多くの方に海外保健医療協力に関心をもっていただき、また JOCS とのつながりを持続していただけるように、現行のプログラムを続けつつ、改善や新しい試みについて委員会で検討していきたい。

5. 運営会議

各プログラムについては、[4-2] ワーカー育成活動全般（16 ページ）を参照。

<ワーカー派遣委員会>

志願書・要請書の提出があった場合に、ワーカー志願者の面接やワーカー派遣要請の検討を行う。

また、ワーカー志願書が提出されていない場合にも、ワーカー希望者の状況を随時把握する。

[5-5] 第5回海外保健医療協力者会議

2012年12月29日～31日の日程で、国内での開催を予定している。準備委員会を発足し、以下の内容など詳細を検討するための協議を実施する。

(1) 主な内容（案）：

- ・新「今後5年間の方向性」のアクションプランの原案や今後の中長期的な事業方針計画に関する協議
- ・主題講演や発題

(2) 対象：理事会、タスク、運営協議会、ワーカー、職員及びゲスト

[5-6] 新「今後5年間の方向性」（2013年～2017年）

2005年度に定めた「今後5年間（2006年～2010年）の方向性」を延長し、本年度も継続する。2011年度に策定した新しい「今後5年間の方向性」を2013年度から実施するため、本年度は具体的なアクションプランを作成する。アクションプランの内容は、理事会、運営協議会、海外保健医療協力者会議で協議していく。新しい「今後5年間の方向性」は以下のとおりである。

<JOCSの目的（基本方針より抜粋）>

本会は、聖書の「私があなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛しあいなさい」というイエス・キリストの教えに従うことを基本姿勢とし、世界の保健医療事情の向上を目指す。

世界の諸教会と連携をとりながら、アジアなど世界の保健医療が十分に行き渡らない地域の自主的な保健医療活動に協力し、人々と問題や苦悩・喜びを共に分かち合う。

この目的を果たすため、保健医療分野でキリスト者の派遣や現地の人材育成およびその他の必要な事業を行う。また、この事業を支援する人々の輪を広げることによって、上記の精神を広く社会に伝える。

<世界の状況>

今日の世界では、グローバル化によって、所得や機会の不平等が拡大しています。あ

らゆる不平等のなかでも、健康の格差は、人々の生活や尊厳を脅かすもっとも大きな問題のひとつです。また、貧困地域における紛争の脅威が増しており、それは、人々の基本的なニーズが満たされていないことが原因のひとつとなっています。

<JOCS の姿勢>

JOCS は、かつて隣国の同胞に対して犯した戦争の反省から設立されました。

JOCS は、キリストの愛の精神に基づき、人々の健康的な生活を支えることにより、人々の基本的なニーズを満たし、すべての人が支えあう平和な社会の実現に寄与します。また、さまざまな宗教、文化、民族を尊重し、共生を目指します。

<JOCS が共に生きる人々>

JOCS はこの姿勢を貫くために、貧しくされている人、虐げられている人、差別されている人、必要な助けから遠ざけられている人のところにとどまり、問題や苦悩・喜びを共に分かち合います。

<今後 5 年間の活動の焦点>

JOCS は共に生きる人々の中で、特に、女性と子ども、障がい者、少数民族、HIV に影響を受けた人々、医療の過疎地にある人々がかかえる保健医療の問題に焦点をあてます。

<JOCS の取り組み>

- ・何よりも弱くされた人と共に生きることを喜びとし、困難を伴う活動に取り組む保健医療分野の人材を育成・派遣します。
- ・現地の人材を育成するために、保健医療活動に従事する人を奨学金によって支援します。
- ・現地の団体とのパートナーシップを強固にし、協働プロジェクトを実施します。
- ・JOCS が共に生きる人々の問題や苦悩・喜びを、より多くの日本に住む人々と分かち合います。
- ・より多くの方々に会員になっていただき、ボランティアや支援者の活動が一層活発になるように取り組みます。
- ・日本の子どもたちが世界の現状を知り、共に生きるための活動へ参加する機会を提供します。
- ・キリスト教諸派との連携を大切にし、教会、キリスト教学校、キリスト教諸団体との協力関係を強化します。
- ・事業及び組織のあり方を常に見直し、公益社団法人として信頼に応える活動を行い、財政をより健全なものにしていきます。

5. 運営会議

[5-7] 評価

(1) 活動終了前レビュー

以下のワーカーの任期終了に先立ち、活動終了前レビューを行う予定である。

宮川眞一ワーカー	第二期	2012年7月
倉辻忠俊シニアワーカー	第一期	2012年(時期未定)

(2) 自記式アンケート

各任期1年目、2年目の終了時に行う自記式アンケートを、以下のワーカーに行う予定である。

青木盛ワーカー	1年目(第二期)	2012年10月
山内章子ワーカー	1年目(第二期)	2013年1月

6. 事務局

＜総主事 大江 浩＞

2012年度、事務局の主な動きは下記の通りである。

第1に、「公益社団法人」として2年目を迎える。公益法人として果たすべき実務は多くかつ責任は重い、認定にふさわしい団体として更なる充実を肝に銘じて歩みたい。

第2に、新法人の定款に基づき、基本方針と実施要綱（P&P）の見直しを行っていく予定である。また今年度は、新しい「今後5年間の方向性」のアクションプランの策定（9月下旬に原案作成）と第5回海外保健医療協力者会議（12月末に開催予定）開催という大きな節目の年である。ほぼ10年に1回開催のこの会議は、JOCSの方針計画を決定する重要な機会であり、良い準備と共に充実した会になるよう力を尽くしたい。

第3に、3か国8名（短期・シニアを含む）のワーカー派遣へのサポートと下半期の宮川ワーカー・倉辻ワーカーの報告会に備えたい。奨学金支援については、奨学生のフォローアップと同時にその成果を支援者にアピールしていきたい。3年目を迎える協働プロジェクト「プロジェクト・りとる」／バングラデシュでの学校保健教育は、今年度も定期的な訪問を行いながら、主体となる現地団体と学校を支えていきたい。

第4に、東日本大震災の被災者支援については、仙台（宮城）、釜石（岩手）での活動継続に加え、新たにいわき（福島）での活動を行う予定である。被災地の人々を主体に、地元の人たちのニーズに寄り添っていきたい。関係各団体との連絡調整は、引き続き東京事務局が担う。

第5に、今年度は、会員増強と寄付拡大を目的に、新しい試みとしてキリスト教雑誌2誌「信徒の友」、「百万人の福音」に年間を通じて広告を掲載する。また中長期的な財政予測に基づき、事業のバランスを考え、大口募金を含め収入確保と財政健全化の努力を続けていきたい。

最後に、人事についてである。ワーカー経験者かつ海外担当主事としての20数年にわたりJOCSの海外保健医療協力を支えてきた川口恭子の定年退職（7月末まで）を受け、新しく森田隆がその後任（4月中旬より）となる。皆様のご支援を賜りたい。国際協力を取り巻く内外の環境の変化は激しい。職員には、海外・国内の事業のマネージメントはもちろん、広報やファンドレイジングの能力向上を目指して、今年度も積極的に啓発・教育の機会を提供していきたい。

6. 事務局

<スタッフ>

総主事	大江 浩
海外担当主事	川口恭子（～7月）／森田 隆
東京事務局	名取智子、大久保奈緒、小池宏美、高橋淳子、森田真実子、山下諭子、 山中 信
関西事務局	渋江理香、久家郁子、河野智恵